

地域がん登録全国協議会第8回総会研究会を
終えて

石田 輝子

第8回総会研究会会長 兵庫県立成人病センター

地域がん登録全国協議会第8回総会研究会が平成11年9月14日に神戸市のひょうご国際プラザ交流ホールで開かれた。全国34都道府県、厚生省、賛助団体から165名(スタッフとして他に22名)の参加があり、盛会のうちに終了した。今回の主題は「地域がん登録の予防医学への貢献」であった。教育講演「がん登録とがん対策」、特別講演「WHO神戸センターの新しい政策と活動」、近畿地域のがん登録室の紹介、会長講演「兵庫県がん登録を用いた検診の効果の検討」、特別報告「ひょうご対がん戦略会議とがん登録」、「愛知県の新地域がん登録システムの開発と動向」、シンポジウム「地域がん登録の予防医学への貢献」が行われた。併せて各登録室の届出票、届出要領、登録室およびスタッフの紹介写真が展示された。

がん登録が老健法の国庫補助事業から外されたのに伴い事業の見直しを迫られている県もあり、それぞれの登録室は、何を目的として登録を行うのかを明確にすることが求められている。がん登録ががん対策には不可欠であることが、行政担当者、大部分の医療関係者、住民には十分理解されているとは言い難い現状の中で、法制の整備と共に登録システムの見直し、病院での病歴管理の充実、登録の成果の公表、利用の促進等を、登録精度を高めつつ発展させていく努力が必要である。システムの見直しでは、愛知県の保健所をがん予防の拠点とした登録システムの再構築、大阪府の幾つかの病院との間でのデータベースの構築が、新しい試みとして研究会で発表された。シンポジウムでは、一次予防、二次予防、医学介入等によるがん予防の企画、効果の評価、精度管理にがん登録をどのように用いることができるかが発表された。又、登録の成果の還元として、主として行政担当者、保健所、市町の保健婦を対象とした場合の効果的な公表の仕方と近年発展の目覚ましい電子媒体を利用した情報の公表の現状や問題点が発表された。教育講演をはじめシンポジウム、講演等の中で強調されたのは、*がん対策を考えないがん登録は無意味であり、又、がん対策がなければがん登録も存立していかない*ということであった。日本のがん登録はシステム、精度、スタッフの面で問題を抱えているが、*罹患率等の数値の公表にとどまらず、行政的、疫学的視点をもって登録を活用していく努力が必要である*。

自由集会報告

谷口 恵子

兵庫県立成人病センター

地域がん登録全国協議会第8回総会研究会前日(平成11年9月13日)に、全国より約70名の参加を得て自由集会を開催した。事前に各登録室へアンケート調査を行い、参加者が語り合えるテーマを選び、4グループに分かれて活発に意見や情報交換を行った。参加者は、事務・行政担当が50%を占め、実務者(保健婦・技師他)が15%、医師・研究職35%であった。

(1) 届出精度を上げる方策としては、登録室や医師会の職員が病院を訪問し届出協力依頼を行う。病院名と届出状況を医師会報や報告書に公表する。医療機関のコンピュータ入力情報を電算リストやFDで提出してもらおう。がん登録委員会に実務レベルの委員会を作り責任者を置くことでがん登録の推進が図られ効果を上げている、などの報告があった。

(2) 情報還元の具体的方法として、予後情報 がん検診者のがんり患情報 報告書の一部をホームページに掲載 年1回の報告書を発行する、他があげられた。

(3) がん登録データと検診受診者やコホート調査対象者等外部データとの照合方法については、住所を市町村のみではなく地区名まで詳細コード化することで作業の省力化が図れたことが報告された。

(4) 登録事業の予算については、「今年から国庫補助が一般財源化されたため、一層厳しい運営を迫られている。少額の県予算のみでは何もできない。赤字分を医師会が負担している。予算が6割カットされた。」などの声が多かった反面、「医師会に委託しているので、しめつけはあまりない。」というところもあった。

(5) その他 病理組織所見からの登録の可能性と問題点については、漢字氏名・住所・性別・生年月日等照合データを別途得る必要がある。原発部位の情報を得ることが困難という指摘があった。がん登録を利用することが診断や検診の方法改善につながる。検診の評価のための利用頻度が高い。各県でがん登録の重要性を認識し、法制化への努力が必要。いろいろな機会にがん登録をアピールして行こう、などの意見があった。

事務局で用意したテーマを越えて、濃密で熱心な意見交換が行われ、さらなる発展へのエネルギー補給ができたと感じている。これを機に全国の地域がん登録が一步前進し、個人情報保護や財政難という苦境を乗り越え、21世紀に向けて新たに始動していけるものと確信する。